

〔倭訓栞前編三十六〕よろこぶ 神代紀に快又欣慶又喜悅をよめり、依媚の義にや、日本紀による

こぼし、伊勢物語によろこぼひを見えたり、ほし、反び、ほひ、反ひ也、歡も同じ、又說悦も同じ、

〔新撰字鏡〕連字、偉慶悦也、奇也、賀也、幸也、福也、於毛加志、又字禮志、

〔類聚名義抄〕心六、怡音 餘ウレシ

〔伊呂波字類抄〕人字、嬉ウレシ、同業 婞 歡 婢 娛 妮已上シ

〔書言字考〕節用集言八辭、嬉ウレシ、同業 婞 歡 婢 娛 妮已上シ

〔倭訓栞前編四〕うれし 神代紀に意をよめり、嬉も同じ、新撰字鏡に蕪もよめり、祝詞に嘉志美と

も見え、皇代紀に歡喜又欣遊をうれしむとよめり、得の意也、

〔伊呂波字類抄〕久字、歡樂 歡悅 歡興 歡喜 歡情 歡呼 歡遊

〔下學集〕下、鬱、拊、悦、拊、躍、怡、悦日本之書、狀、怡、作爲說、非義也、〔同、下、疊、字、〕啞、噓、喜、悅之貌

〔書言字考〕節用集言八辭、怡悦又云喜悅、歡喜、歡悅クシヤク、クシヤク、クシヤク、歡情、歡樂〔同、九、言、辭、〕悦喜又云喜悅

〔日本書紀〕神代、陰神先唱曰、意哉、過可美少男焉少男此云鳥等孤、陽神不悅曰、吾是男子、理當先唱、如何婦人

反先言乎、事既不祥、宜以改旋中。於是陰陽始違、合爲夫婦、及至產時、先以淡路洲爲胞、意所不快、故名之曰淡路洲、

〔吾事記〕上、於是洗左御目時、所成神名、天照犬御神、次洗右御目時、所成神名、月讀命、次洗御鼻時、所成

神名、建速須佐之男命須佐二字、以音、○中略。此時伊邪那岐命、犬歡喜詔、吾者生子、生于而於生終、得三貴子、

〔日本書紀〕神代、一書曰、略、及至彥火火出見尊將歸之時、海神自言、今者天神之孫、辱臨吾處、中心欣

處、何自憇之、

〔日本書紀〕三、戊午年十月、我卒聞歌、拔其頭椎劔、一時殺虜、虜無復、唯類者、皇軍大悅、仰天而咲、

〔日本書紀〕十一、四十二年○應仁、二月、譽田天皇○應崩、時太子菟道稚郎子讓位于大鷦鷯尊○仁、未即

位、